

Shared characteristics of apologizing and sympathizing in German 『ドイツ語の発話行為「謝罪」と「同情」にみられる共通性』

Yui Hama

Reference data:

Hama, Yui (2010) Shared characteristics of apologizing and sympathizing in German 『ドイツ語の発話行為「謝罪」と「同情」にみられる共通性』. In Reinelt, R.(ed.) OLE at JALT 2010 Compendium. Other Language Educators, JALT, Matsuyama, p. 123-126.

## ドイツ語の発話行為 「謝罪」と「同情」にみられる共通性

2010年11月21日(日)JALT  
関西大学大学院 博士課程後期課程  
浜 由依

## アウトライン

- 理論的背景
- 研究目的
- 調査対象
- 調査方法
- 結果
- まとめと今後の課題
- 参考文献

## 理論的背景:ドイツ語では

(例) “Es tut mir leid.” (私はそれが残念だ。)  
“Es tut mir leid, wenn ich Sie gekränkt habe.”  
(もし、お気を悪くしたとしたら申し訳ありません。)  
独和大辞典(2000)

これまでのドイツ語における「謝罪」と「同情」の研究では、個別の発話行為に限定して調査されている(Ratmayr, 1996; Röder, 2001; Meyer, 2007; 浜, 2010 etc.)。

- “Es tut mir leid.”が、発話行為「同情」と「謝罪」で使用されるのはなぜか？

## 理論的背景:日本語では

- (例) 「すみません。」(Es tut mir leid.)  
「これを僕にくれるのかい？ すみませんね。」  
(Das schenkst du mir? Danke schön.)  
(新コンサイス和独辞典より)

- 「すみません」が、「感謝」として使用されるのはなぜか

- (1) 感謝と謝罪の際に抱く感情が共通(佐久間, 1983)
- (2) 話し手が利益を得た際、それは「聞き手の負担」によって得たのか、あるいはそうでないのかを判断する(金田一, 1987)
- (3) “Indebtness”(借りの)概念があるか(Coulmas, 1981)

実証的な調査へ (三宅, 1993a, 1994; 山本, 2003, ロング, 2004 etc.)

## 理論的背景:日本語を対象とした先行研究

「感謝」の発話行為を遂行する際に、感謝表現ではなく、謝罪表現を選択する決定要素:

- 場面認識: 聞き手の負担、話し手の利益(三宅, 1994; 岡本, 1992)
- 話し手の感情: 自責の念、詫びの感情(三宅, 1994; 山本, 2003)
- 聞き手との距離(三宅, 1993a; 高田, 1998; 山本, 2003)

## 研究目的

(1) 「感謝」と「同情」の発話行為において、日本語とドイツ語ではどのような言語表現が使用され、両言語にいかなる異同があるか。

(2) 日本人大学生(以下、日本人)とドイツ人大学生(以下、ドイツ人)が各場面でのどのような感情を抱き、またいかなる異同があるか。

(3) 言語表現と感情にどのような関係があるか。

## 調査対象者

	日本人	ドイツ人
男性	50名	57名
女性	55名	48名
合計	105名	105名

- いずれも、日本語母語話者、ドイツ語母語話者で20代の大学生である。
- 実施時期: 日本(2009年10月)、ドイツ(2009年8月)

## 調査方法

- 質問紙(DCT)合計8場面(感謝、同情)
- 【場面設定】

場面の種類	参考にした質問紙	留意点
感謝	三宅(1993)	自発的・依頼
同情	関山(1998)、浜(2010)	深刻さの程度

\*資料1

- 出来るだけ自然な発話の自由記述
- 感情の選択あるいは自由記述
- 場面の評価(5段階のリカートスケール)

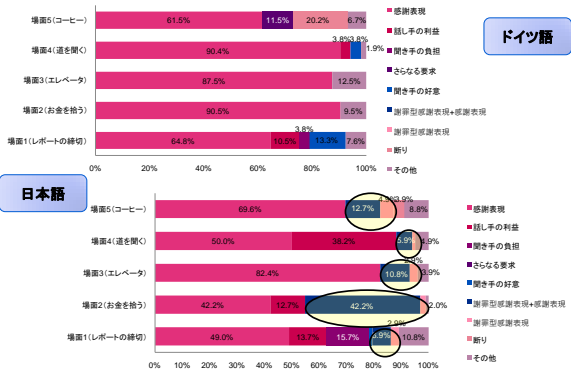
## 質問事項:感情の種類

感謝	a. やや感謝の気持ち b. 強い感謝の気持ち
謝罪	c. やや詫びの気持ち d. 強い詫びの気持ち
同情	e. やや残念な気持ち f. 強い残念な気持ち
形式的	g. 特に感謝、詫び、残念な気持ちはないが、形式的に何か言いたい
その他	h. 自由記述

(三宅, 1993)

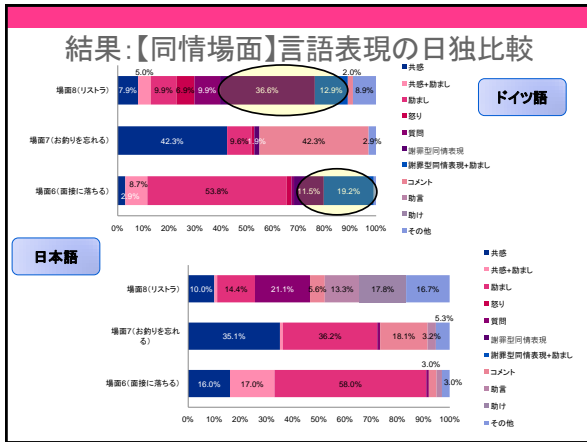
- 複数選択可
- (h) その他を選択した場合は、具体的にどのような感情を抱いたかを記述する。

## 結果:【感謝場面】言語表現の日独比較



## 結果:【感謝場面】言語表現の日独比較

場面	日本語	ドイツ語
1 (レポートの締切)	ありがとうございます。今後は締切日を必ず守ります。	Vielen Dank, ohne die Verschiebung hätte ich es nicht geschafft.
2 (お金を拾う)	すみません、ありがとうございます。	Vielen Dank.
3 (エレベータ)	ありがとうございます。	Vielen Dank.
4 (道を聞く)	ありがとうございました。助かりました。	Vielen Dank und schönen Tag noch!
5 (コーヒー)	すみません、ありがとうございます。	Danke, mit Milch bitte.



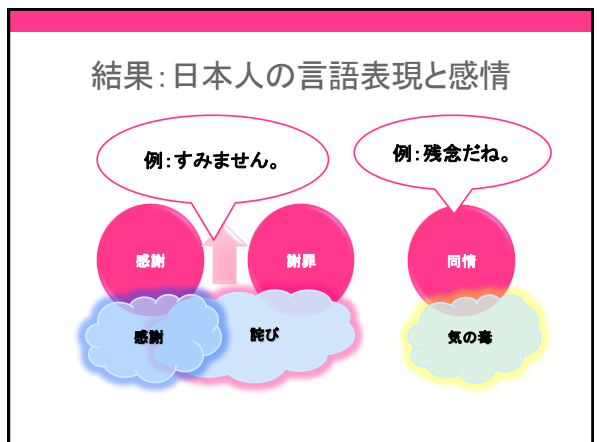
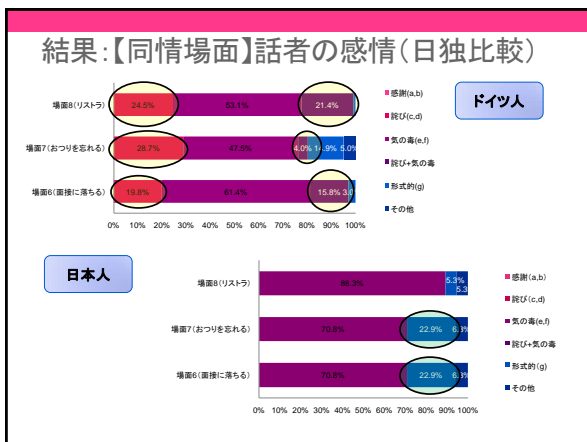
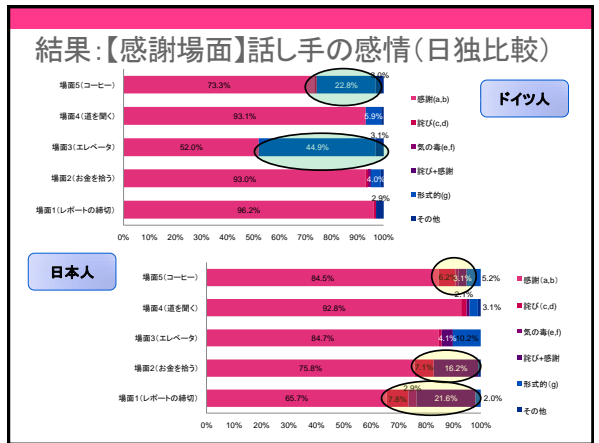
### 結果：【同情場面】言語表現の日独比較

場面	日本語	ドイツ語
6 (面接に落ちる)	残念だったね。次があるよ。	Es tut mir leid für dich. Aber kopf hoch! Beim nächsten Mal wird es klappen.
7 (お釣りを忘れる)	うわー、残念やな。	Das ist schade. Dumme Sache.
8 (リストラ)	これからどうするの？	Es tut mir leid.

### 結果：話し手の感情(日独比較)

感謝場面	$\chi^2$ [df]	p
1(レポートの締切)	41.950 [5]	0.00*
2(お金を拾う)	27.424 [5]	0.00*
3(エレベータ)	37.049 [4]	0.00*
4(道を聞く)	4.012 [4]	0.40
5(コーヒー)	22.481 [5]	0.00*
同情場面		
	$\chi^2$ [df]	p
6(面接に落ちる)	37.684 [4]	0.00*
7(お釣りを忘れる)	37.761 [4]	0.00*
8(リストラ)	56.887 [4]	0.00*

(P<.01)



## 結果:ドイツ人の言語表現と感情

例: Vielen Dank.

感謝

感謝

例: Es tut mir leid.

謝罪

同情

詫び

気の毒

## まとめと今後の課題

- ・言語表現と感情【日独比較】:日本人は、発話行為「感謝」において、ドイツ人は発話行為「同情」において、「詫び」の感情を抱き、また謝罪型表現を使用した。ドイツ人は、感謝の場面においてより形式的で、日本人は同情の場面においてより形式的である。
- ・他の調査方法の併用
- ・地域性の問題

## 参考文献

- Coulmas, F. (1981). Poison to your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed. In F. Coulmas (Ed.), *Conversational Routine*. Hague: Mouton, 69-91.
- Meyer, K. (2007). *Interkulturelle Pragmatik: Aufforderungen, Entschuldigungen und Beschwerden*. Unpublished doctoral dissertation. Universität Hamburg, Deutschland.
- Rathmayr, R. (1996). *Pragmatik der Entschuldigungen: vergleichende Untersuchung am Beispiel der russischen Sprache und Kultur*. Köln: Böhlau Verlag.
- Röder, B. (2001). *Das Sich-Entschuldigen: Theoretische Ansätze und Forschungsergebnisse der Sozialpsychologie*. Unpublished Magisterarbeit. Universität Passau, Deutschland.
- Searle, J. R. (1969) *Speech acts: An essay in the philosophy of language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 岡本真一郎 (1992) 「感謝表現の使い分けに關する(2)―「ありがとうタイプ」と「すみませんタイプ」はどのように使い分けられるか―」『愛知学院大学文学部紀要』22, 35-44.
- 金田一秀徳 (1987) 「おれとお詫びのことば」『言語』16, 75-83.
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」水谷修 編著『話しことばの表現』(pp. 54-65). 筑摩書房.
- 関山健治 (1996) 「日本語の「慰め・激励」表現にみられるPoliteness Strategy―話者の性別と社会変数による影響―」『白馬夏季言語学会論文集』9, 11-17.
- 高田久美子 (1998) 「詫び表現からみた日本人の言語行動―詫びと感謝の心理的接点―」『福岡YWCA日本語教育論文集』6, 87-113.
- 浜由依 (2010) 「発話行為「慰め」の日独対照研究―性別と深刻さが発話に及ぼす影響―」、『関西大学大学院外国語教育学研究科』、8, 39-64
- 三宅和子 (1993) 「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム―Coulmas(1981)のindebtedness「借り」の概念からの社会言語的展開―」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』8, 19-38.
- 三宅和子 (1994) 「「詫び」以外で使われる詫び表現―その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係―」『日本語教育』82, 134-146.
- 山本もと子 (2003) 「感謝の謝罪表現「すみません」―「すみません」が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ―」『信州大学留学生センター紀要』4, 1-13.
- ロング・クリスティーナ (2004) 「日本語の「感謝」における謝罪表現とそれを規定する要因」『Lingua』15, 3-21.